

学長定例記者会見要項

日 時： 令和7年1月16日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 山形大学における新たな教育学部の構想（変更）～地域のイノベーション人材を育てられる教員の養成～
2. 並河英紀教授が第42回（2024年度）日本化学会学術賞を受賞～学際的な自己組織化の研究を進め、独創的な研究分野を開拓～
3. 新酒「山形大学燦樹（きらめき）2025」完成～山形大学オリジナル純米大吟醸酒、1月23日より販売開始～
4. 社会共創山形フォーラム for NEXT Generation 探究活動等で地域活動や調査を行う高校生と研究者・地域をつなぎスキルアップ
5. 今回のテーマはラジオ！「ななはく！2025 ソーレ」開催です！
6. 卒業・修了研究作品展2025「積み木」を開催します
7. 伊達政宗発給の最古の文書再考～政宗花押編年の見直しを通じて～ 名誉教授松尾剛次
8. 大正3年2月16日の蔵王山冬期初登頂関連の新資料が見つかりました
（前篇）初登頂した神山峯吉氏・山形師範学校

お知らせ

1. 令和7年度大学入学共通テストの取材について ～大学入学共通テストの円滑な実施に御協力をお願いします～
2. 「ヤマガタステム（STEM）アカデミー」の受講生が研究成果の発表を行います
3. 【学生チャレンジプロジェクト】舟形町の野菜を用いた学食提供について～舟形満腹プロジェクトで地域を元気に～
4. 「日本列島はすごい～山形もすごい」～大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話 2025」を開催～

（参 考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和7年2月6日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（1月16日）発表

1. 山形大学における新たな教育学部の構想（変更）～地域のイノベーション人材を育てられる教員の養成～

理事・副学長（教育担当）

でぐち たけし
出口 毅

2. 並河英紀教授が第42回（2024年度）日本化学会学術賞を受賞～学際的な自己組織化の研究を進め、独創的な研究分野を開拓～

学 長

学術研究院（理学部担当） 教授

たまた ひでとし
玉手 英利
なびか ひでき
並河 英紀

3. 新酒「山形大学燦樹（きらめき）2025」完成～山形大学オリジナル純米大吟醸酒、1月23日より販売開始～

農学部附属やまがたフィールド科学センター 技術専門職員

山形大学生協農学部購買書籍店店長

奥羽自慢株式会社 製造部

さくま たくや
佐久間 拓也
おじま ゆうや
小島 憂也
いしづか まさひで
石塚 雅英

4. 社会共創山形フォーラム for NEXT Generation 探究活動等で地域活動や調査を行う高校生と研究者・地域をつなぎスキルアップ

学部等連係課程実施基本組織設置準備室

おくの たかし
奥野 貴士

5. 今回のテーマはラジオ！「ななはく！2025 ソーレ」開催です！

学術研究院 教授（山形大学附属博物館学芸研究員）

まちの記憶を残し隊隊員/人文社会科学部人文社会学科2年

まちの記憶を残し隊隊員/人文社会科学部人文社会学科2年

さとう こと
佐藤 琴
かたぎり ゆうすけ
片桐 悠輔
ひらつか とうま
平塚 冬真

6. 卒業・修了研究作品展2025「積み木」を開催します

地域教育文化学部文化創生コース4年

地域教育文化学部文化創生コース4年

地域教育文化学部文化創生コース4年

地域教育文化学部文化創生コース4年

あべ ののか
阿部 希乃風
いしかわ こはる
石川 小春
たかはし そら
高橋 そら
はやみず きょうか
早水 京華

7. 伊達政宗発給の最古の文書再考～政宗花押編年の見直しを通じて～ 名誉教授松尾剛次

山形大学都市地域学研究ユニット 名誉所長

まつお けんじ
松尾 剛次

8. 大正3年2月16日の蔵王山冬期初登頂関連の新資料が見つかりました

（前篇）初登頂した神山峯吉氏・山形師範学校

山形大学名誉教授（環境科学） 樹氷の会 会長

やなぎさわ ふみたか
柳澤 文孝

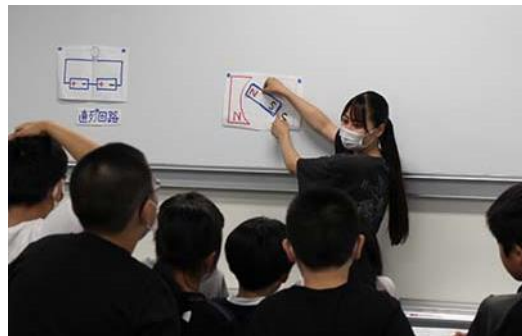
令和7年（2025年）1月16日

山形大学における新たな教育学部の構想(変更)

～地域のイノベーション人材を育てられる教員の養成～

【本件のポイント】

- 令和8年4月から、今後の地域の社会経済等を担う人材を育成できる教員の養成、当面の間の高い教員需要への対応、子供の多様な課題に対応できる教員の養成に向けて、地域教育文化学部を教育学部に改組する構想を検討中
- 昨今の教員需要の高まり、現代的課題への対応のため、構想の見直しを実施



【概要】

山形大学は、山形県をはじめ、教育関係諸団体との意見交換を重ね、地域の社会経済の変化・人口減少、子供の多様な課題に対応できる教員養成の必要性、高い教員採用者数への対応、社会に開かれた教育課程・学校教育と地域との協働の推進等に対応するため、令和8年度（2026年度）から地域教育文化学部を教員養成に特化した教育学部へ改組する構想を検討し、令和6年10月31日付けで公表しました。

その後、文部科学省との協議を踏まえ、昨今の教員需要の更なる高まり、現代的な課題に対応できる教員を養成するため、構想の見直し・具体化を行いました。現在の高校生・保護者の皆様には進路選択で影響が大きいものと考え、今般、各コースの組織とそれぞれ予定する入学定員を含めた変更後の構想を公表いたします。

【設置構想】（予定）

教育組織名及び入学定員：

変更前（2024.10.31 時点）	変更後（最新）
○教育学部 165 名 ◇学校教育教員養成課程 120 名 ・小学校教員養成コース ・中学校教員養成コース ・小中理数系教員養成コース ◇地域教育共創課程(仮称) 45 名 ・臨床心理の学修のコース ・スポーツや食の学修のコース ○人文社会科学部 280 名 ○理学部 200 名	○教育学部 145 名 ◇学校教育教員養成課程 145 名 ・小学校教員養成コース (60 名) ・中学校教員養成コース (45 名) ・理数系教員養成コース (25 名) ・心理支援系教員養成コース (15 名) ○人文社会科学部 290 名 ○理学部 210 名

変更内容・理由：

- ・昨今の教員需要の更なる高まりに対応するため、教員養成に特化した課程の入学定員を 120 名から 145 名へ増
- ・児童生徒の心の問題に対して的確に対応できる教員を養成するため「心理支援系教員養成コース」を新設

取得可能な免許：

- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・小学校教諭一種免許状
- ・中学校教諭一種免許状（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、英語）
- ・高等学校教諭一種免許状（国語、地理歴史、数学、理科、音楽、美術、保健体育、英語）
※上記に加え、高等学校教諭一種免許状（公民、情報）の開設を目指す。
- ・特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）

※上記設置構想は、文部科学省と協議中のものであり未確定です。今後さらに協議を重ねて具体化を図り、来年度に文部科学省 大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。

構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。

（お問い合わせ）

企画・戦略室長 内藤

TEL 023-628-4190 【受付時間】 平日8：30～17：00

メール vu-kikair@im.ki.yamagata-u.ac.jp

山形大学における 新たな教育学部の構想

山形大学は、令和8年4月に教育学部を設置します（地域教育文化学部を改組）。

新たな教育学部では、安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとしての教員を養成し、地域に輩出します。

これにより教育を中心とする諸課題に対応し、地域のウェルビーイング増進に取り組む人材の育成に貢献します。

3つのコンセプト

ワクワクしながら挑戦できる学級・授業づくり
子供と学校・地域・家庭をつなぐ教員
成長型コミュニティ創生の原動力

<留意事項>

本構想は、文部科学省と協議中のものであり未確定です。今後さらに協議を重ねて具体化を図り、来年度に文部科学省 大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。



教育学部 学校教育教員養成課程の概要

養成する人材像

「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とする総合大学である山形大学の教育学部として、以下に示す人材の養成を目的とします。

- 幅広い視野と探究心、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持ち、独創性と柔軟性を持って山形県をはじめとする東北地方の各地域や学校における教育活動が直面する諸課題に取り組むことができる人材
- 学校・家庭・地域の連携、地域社会のウェルビーイング増進についての基本的知識技能を持って学校教育に貢献できる実践的な人材

アドミッション・ポリシー

教育学部では、3つのCを持つ入学生を求めています。

Challenge

挑戦意欲

広い視野に立って、新しいことに挑戦しようとする意欲のある人

Cooperation

協働意欲

課題に積極的に取り組む行動力、他者を受け入れる包容力、社会性とコミュニケーション能力を備えている人

Contribution

社会貢献意欲

今日的な社会課題とその課題解決に強い関心があり、地域の発展に貢献できる教員になる意欲・情熱を持っている人

教育の特色

将来を見据えて
計画的に副免許状を
取得するための
教職キャリア
支援

総合大学としての
強みを活かして
地域ニーズに合った
専門性を持つ教員
を育てる

学校と地域の
つながり方を
体験的に学べる
実践的
カリキュラム

確かな指導・学生支援体制



豊かで多様な現場体験

山形大学附属小学校・中学校・幼稚園・特別支援学校との連携に加え、地域の学校や子供支援機関・NPO等々との連携のもと、教育に携わる多様な現場経験を確保します。



アドバイザー制度

山形大学では、きめ細やかな指導を行うため、学生の皆さんに対して責任を持って指導するアドバイザーが決められています。修学面・生活面に関するさまざまな相談にのり、指導・助言を行います。



キャリアサポート体制

1年次に現職教員の話や各免許担当教員による説明に基づいてなりたい教師像と必要な免許種を明確にする機会を設けている他、3・4年次には教員採用試験対策講座、現職教員と語る場を設けています。

コースの概要

コース (定員)	特色	コースプログラム	取得可能な免許・資格 (予定)
小学校教員 養成コース (60名)	学級担任として各教科や生徒指導の専門性をもち、就学前・小・中の接続、特別支援教育あるいは地域連携に対する理解を備えた小学校教育のスペシャリストを養成します。 【卒業要件：小学校教諭一種免許】	・初等教育プログラム ・山形県初等教育プログラム ・特別支援教育プログラム ・チャレンジプログラム	・小学校教諭一種免許状 ・中学校教諭一種免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、英語) ・高等学校教諭一種免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、英語、情報) ・幼稚園教諭一種免許状 ・特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者、肢体不自由者、病弱者) ・社会教育主事任用資格(社会教育士) ・学校図書館司書教諭資格 ・学芸員 ・学校心理士(心理支援系教員養成コース(大学院教育実践研究科へ進学した場合)) ・公認心理師(心理支援系教員養成コース(大学院社会文化創造研究科へ進学した場合)) ・臨床心理士(心理支援系教員養成コース(大学院社会文化創造研究科へ進学した場合))
中学校教員 養成コース (45名)	各教科(数学、理科を除く)の専門性と教科等横断、小・中・高の接続、特別支援教育あるいは地域連携に対する理解を備えた中学校教員を養成します。 【卒業要件：中学校教諭一種免許(数学、理科を除く)】	・国語科教育プログラム ・社会科教育プログラム ・英語科教育プログラム ・音楽科教育プログラム ・美術科教育プログラム ・保健体育科教育プログラム ・特別支援教育プログラム ・チャレンジプログラム	
理数系教員 養成コース (25名)	自然科学に対する広い専門性を有する小学校教育のスペシャリスト【卒業要件：小学校教諭一種免許】、又は自然科学に対する深い専門性を有する中学校教育のスペシャリスト【卒業要件：中学校教諭一種免許(数学、理科)】を養成します。	・初等理数教育プログラム ・中等理数教育プログラム ・山形県初等理数教育プログラム ・チャレンジプログラム	
心理支援系 教員養成 コース (15名)	特に子供の心身の成長について十分な知識・理解があり、学校現場での心理的援助に対する専門性を有する小学校教育のスペシャリストを養成します。 【卒業要件：小学校教諭一種免許】	・心理支援教育プログラム ・チャレンジプログラム	

特色ある3つのプログラム

	山形県初等教育プログラム	チャレンジプログラム	特別支援教育プログラム
概要	学校推薦型選抜II (山形県小学校教員希望枠)入試 による入学者向けの 特別プログラム	大学院進学を前提とした 6年一貫教育プログラム	特別支援教育に関する 高い専門性を備えることを目指す 教育プログラム ※特別支援教育プログラムを選択しない場合でも 副免として同免許の取得は可能。 ただし、受講人数が多い場合は選考する場合あり
特色	山形県の教育課題に関わる実践的な少 人数学習により「しなやかに」そだ つ・そだてる、地域と「ゆたかに」つ なぐ・つながる山形県小学校教員を養成 します。	大学院を含めた6年一貫教育により、教 育実践のための専門的かつ高度な学修を することができます。 また、取得する一種免許状に応じて各学 校種の専修免許状を取得できます。	特別支援学校、小中学校の特別支援学級、 通常学級での特別な支援を要する子供た ちに対する指導力を備えた教員を養成し ます。

学費（予定額）

入学金 282,000円

授業料 535,800円（年額）

学費の免除

日本学生支援機構の
給付型奨学金の採用
者となった場合、支
援区分に基づき授業
料等の免除が実施さ
れます。

第Ⅰ区分	全額免除
第Ⅱ区分	3分の2免除
第Ⅲ区分	3分の1免除
第Ⅳ区分(多子世帯)	4分の1免除

キャンパス

山形大学 小白川キャンパス

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

- J R 山形駅から東方へ約2.5km
- J R 山形駅前から「山形県庁」行きバスで
「南高前・山大入口」下車（約6分）、徒歩約7分
- J R 山形駅前から
ベニちゃんバス「東くるりん 東原町先回りコース」で
「山大前」下車（約9分）
- 徒歩の場合は J R 山形駅前から約30分
- J R 仙台駅から
- 高速バス「山形行き」で
「南高前・山大入口」下車（約55分）、徒歩約7分



令和7年（2025年）1月16日

並河英紀教授が第42回（2024年度）日本化学会学術賞を受賞 ～学際的な自己組織化の研究を進め、独創的な研究分野を開拓～

【本件のポイント】

- 並河英紀教授は、2011年の本学着任以降、自己組織化に関する研究を行ってまいりました。今回の受賞は、この自己組織化に関する基礎的かつ学際的な研究成果が高く評価されたものであります。
- 日本化学会は1878年（明治11年）に創立され、会員約3万名を擁するわが国最大の化学の学会であり、学術賞は、化学の基礎または応用において先導的・開拓的な研究業績をあげた研究者に送られる賞であります。
- 山形大学における日本化学会学術賞の受賞は、第42回目にして初であり、東北地方でも東北大学以外での受賞は初めてとなります。



【概要】

並河英紀教授（理学部主担当・理学部長）が第42回日本化学会学術賞を受賞しました。この賞は、わが国最大の化学系学会である日本化学会から授与されるものであり、先導的・開拓的な研究業績をあげた研究者に贈られるものです。今回の受賞は、並河教授が山形大学に着任した2011年以降行ってきた自己組織化に関する基礎的かつ学際的な研究成果が高く評価されたものです。山形大学では初、東北地方でも東北大学以外での受賞は初めてとなります。受賞研究題目は「非線形・非平衡系における自己組織化に関する研究」であり、3月26日から関西大学で開催される日本化学会第105春季年会(2025)において記念講演ならびに授賞式が行われます。

【自己組織化】

自己組織化とは、物質などが自ら集合し、規則的な構造や秩序を構築する現象を指します。例えば、水分子が自己組織化して規則的な構造を作ったものが氷であり、洗剤に含まれる界面活性剤分子が油污れを落とすために形成するミセルも、自己組織化によって自ら作り出す構造の一つです。他にも、細胞膜は脂質分子が自己組織化したもの、熱帯魚の綺麗な縞々模様は色が異なる色素細胞が自己組織化したものなど、あらゆる分野で自己組織化による空間的あるいは時間的な秩序構造の仕組みが組み込まれています。自然科学分野だけではなく、社会科学分野にもあります。例えば、2008年ノーベル経済学賞を受賞したポール・クルーグマンは、都市がどのように構築されるかを自己組織化の観点から研究しています。このように、「自己組織化」は、化学や生物、地球、宇宙、社会・経済といった幅広い分野で注目されている学際的で普遍的な原理です。

【受賞研究内容の概要】

前述のように非常に多岐にわたる分野においてみられる自己組織化ですが、構造形成の過程の違いによって「平衡系の自己組織化」と「非平衡系の自己組織化」に分けられます。並河教授は、2011年の本学着任以降、この両方の自己組織化に関する研究を進めてまいりましたが、そのうちの「非平衡系の自己組織化」に関する独創的な研究成果が高く評価されました。その内容は大きく分けて次の二つがございます。

（1）リーゼガング現象に関する研究

リーゼガング現象とは、ドイツ人科学者の Raphael Edward Liesegang が1896年に発見した自己組織化現象です（冒頭の写真）。シャーレや試験管でも簡単に実験できるにもかかわらず美しい模様が浮かび上がることから、一般の方が興味を持たれたり、高校の探究学習などでも活用される実験題材となっております。これまでに県外のアマチュア鉱物採集家の方から質問を受けリーゼガング現象と岩石模様についての議論を行ったことや、実験方法やシミュレーション方法を指導した高校生が、高校生・高専生科学技

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

術チャレンジで朝日新聞社賞を受賞し、ISEF2024（国際的な集会）へ出場したこともございます。

この様に実験は非常にシンプルであります、非線形過程と呼ばれる複雑な反応機構を含んでいることから、発見から 100 年以上たっても美しい模様を形成する反応機構の全貌解明には至っておりません。その様な中、並河教授はリーゼガング現象に関する二つの提案モデルを統合した画期的なモデルを提案し、自然界で見られる類似の自己組織化構造の形成機構を解き明かすカギとなる新たなアプローチを提案することに成功しました。

（２） アミロイドβ（Aβ）タンパク質の自己組織化に関する研究

Aβタンパク質が脳の中で自己組織化をすることが、アルツハイマー病の発症に関わっていると考えられています。その為、アルツハイマー病の発症機構を理解するために、Aβタンパク質の自己組織化に関する研究が世界中でおこなわれています。並河教授は、脳内における特殊な環境（＝非平衡状態）がAβタンパク質の自己組織化に影響を及ぼしていることを突き止めました。本成果は、アルツハイマー病に関する分子メカニズムの理解にとどまらず、生体内の自己組織化が関与する多くの疾患等に関する新たな知見を発掘する可能性も有し、さらに、自己組織化を用いた高機能材料開発などへの応用も期待される成果になりました。

【今後の展望】

冒頭の「自己組織化」で記述した通り、自己組織化は、化学分野だけではなく、生命、地球、宇宙、そして社会科学など、あらゆる分野に普遍的な時空間的な秩序を作る原理として働いています。その中での化学者としての使命は、他分野でもみられる自己組織化を化学反応を用いて再現し、その反応機構を解明することで、自然界でみられる自己組織化に共有する普遍的な原理を発掘・理解することです。引き続き、様々な自己組織化現象について化学的な視点から原理を追求する研究を進め、得られた知見を、他の自然科学・社会科学分野へ還元できるような学際的研究を先導して参りたいと思います。

【さいごに】

今回の受賞は山形大学に在籍していた 13 年間の研究成果に評価を頂いたものでありますが、この 13 年間の半分以上となる 7 年間は、副学長特別補佐（2 年間）、理学部副学部長（3 年間）、理学部長（現在 3 年目）と、学部・大学運営に携わってまいりました。この様に研究時間が制限された中でも国内外でも高く評価を頂ける研究活動を進めることができたのは、一緒に研究を進めてきた山形大学理学部学生・大学院生の能力の高さを示すものに他なりません。理学部では、学術的な知の創出を使命として、その観点から専門性を重視した教育を展開しています。一方で、現代社会が求めるコミュニケーション能力や課題解決力など、多様なスキルを養う新しいカリキュラムにも積極的に注力しています。引き続き、専門知識と社会的スキルを兼ね備えた人材を輩出し、地域社会の発展に貢献できるよう、研究者として、また、理学部長として、教育・研究環境の整備を進めて参りたいと思います。

お問い合わせ

学術研究院教授 並河英紀（自己組織化学）／理学部主担当

TEL 023-628-4589 メール nabika@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

PRESS RELEASE

令和7年（2025年）1月16日

新酒「山形大学燦樹（きらめき）2025」完成 ～山形大学オリジナル純米大吟醸酒、1月23日より販売開始～

【本件のポイント】

- 農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で栽培された酒米を原料とした日本酒が本年度も完成した。
- 製作過程のうち「稲刈り」「仕込みの一部」に学生が参加した。
- 売上の一部は学生への支援に活用する。



【概要】

山形大学オリジナル日本酒「燦樹（きらめき）」は、農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で栽培された米を原料に使用した純米大吟醸酒で、2007年から山形大学生協で販売しています。使用している酒造好適米「出羽燦々」は、特別栽培の認証を受けており、慣行栽培に比べ農薬と化学肥料の使用を50%以下に抑えて栽培されたものを100%使用しています。

醸造は奥羽自慢株式会社に協力を仰いだほか、米作り・酒造りの行程の一部に学生が関わり、学生の日本酒への理解を深める場としています。

約1,800本（約396万円）の販売を予定しており、売り上げの一部は、学生への支援として活用されます。

【山形大学燦樹（きらめき）2025の概要】

醸造本数：生酒約400本、うすにごり約250本、火入れ約1,150本の合計約1,800本

価格：いずれも、720ml瓶入り1本2,200円(税込)

- ・ 小白川・飯田・米沢・鶴岡の各キャンパス内にある山形大学生協の店舗での直接購入が可能です。
- ・ 通信販売の場合、生協ホームページ（<https://www.yamagata.u-coop.or.jp/>）を通じて組合員向けに販売を行います。

【醸造元】

奥羽自慢株式会社（山形県鶴岡市上山添神明前123）

※2022年2月発売以降4回目。日本酒のほかにオリジナルシードルも取り組んでいます。

【学生の参加による酒造り】

酒の製造過程を学び、日本酒に対する親しみを持ってもらう目的で、9月に高坂農場にて稲刈り、11月に奥羽自慢株式会社にて仕込みの一部を体験しました。この活動には山大学生延べ34名が参加しました。

参加した学生からは、「酒蔵によって製造方法の違いがあったことがわかった」「米が日本酒になる過程を見て面白かった」などの感想が寄せられました。

【売り上げの一部を学生支援に活用】

本年完売した場合には売り上げの一部から36万円を「山形大学基金」等に寄附いたします。

寄付贈呈式は、毎年7月下旬頃に実施しています。

参考：昨年 <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/information/20240801/>

お問い合わせ

企画について：農学部購買書籍店 小島 Ojima.Yuya@univ.coop

販売・取材について：小白川コンビニ店 Ciel(シエル) 遠藤

TEL 023-641-8662 メール Endo.Risa@univ.coop

PRESS RELEASE

令和7年（2025年）1月16日

社会共創山形フォーラム for NEXT Generation

探究活動等で地域活動や調査を行う高校生と研究者・地域をつなぎスキルアップ

【本件のポイント】

- 令和7年2月15日（土）に探究活動等で地域活動や地域調査を実施している高校生を対象とした、情報交換やスキルアップを目的としたフォーラムを開催します。
- 社会共創デジタル学環の教員や一般の方々も交え、ラウンドテーブル方式で各自の活動や調査についての報告や日頃の活動の課題や疑問等について協働的に議論します。



【概要】

探究活動等で地域活動や地域調査を実施している高校生を対象とし、他校の生徒や、研究者、地域の方との情報交換、スキルアップを目的としたフォーラムを開催します。本年度のフォーラムでは県内高校生を主な発表者としてします。フォーラムでは、社会共創をテーマとした、大森桂副学長（社会共創担当）の基調講演・パネルディスカッションを行います。そして、各自の活動報告や調査報告を行い、日頃の調査や活動についての課題や疑問を社会共創デジタル学環の教員や一般の方々と膝を突き合わせて、ラウンドテーブル方式で協働的に議論します。社会共創デジタル学環の教員による、調査方法や解析方法、活動内容についての個別相談会も開催します。

【社会共創山形フォーラム for NEXT Generation】

日時：2月15日（土） 10：00-13：00

場所：小白川キャンパス 基盤教育棟3号館 共創アトリエ

発表者：高校生

参加者：一般（保護者の方も参加できます）

発表方法：ラウンドテーブル形式とし、探究活動等で地域活動や地域調査で用いたスライドや成果物を持参し、他校の生徒や一般の方々に5分程度で紹介した後、テーブル内で質疑応答します。個人・グループどちらでも参加できますが、グループの場合はメンバー全員が各自説明できるように準備してきてください。グループで活動したが個人で参加する場合には、グループメンバーの許可を得た上でご参加ください。**事前の資料提出や発表練習等の必要はございませんので、お気軽にご参加ください。**

定員： 50名程度 （高校生、一般、研究者を含む）

【内容】

1. 基調講演・パネルディスカッション 10時～11時

- ・ 基調講演 「社会共創で描く近未来の山形」
大森 桂 副学長、やまがた社会共創プラットフォーム戦略会議委員長
- ・ パネルディスカッション

お問い合わせ
山形大学小白川キャンパス事務部総務課学環準備室担当
TEL：023-628-4505
メール：yu-gasoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

2. 活動報告会（ラウンドテーブル形式の高校生による発表） 11時～12時
地域活動や地域調査についてスライド等を用い、各5分程度で紹介
ラウンドテーブルには、高校生以外にも研究者や一般の方が参加します
3. 交流会＆ 個別相談会 12時～13時

飲料と茶菓子をご用意し、気軽に参加者間の交流をはかります。希望者にはデータ解析や調査方法、連携先などに関する個別相談に応じます。
4. 閉会の辞

【申込み方法】 学環HP又はメールにて （申込締切 2月7日（金））

【主催】 山形大学社会共創デジタル学環設置準備室 【協力】 やまがた社会共創プラットフォーム

NEXT Generation

社会共創山形フォーラム

地域活動や地域調査する
高校生・研究者・地域をつなぎ
スキルアップ

2025

2.15 土

10:00-13:00

【主催】山形大学社会共創デジタル学環

【協力】やまがた社会共創プラットフォーム

NEXT Generation

社会共創山形フォーラム

2025

2.15 土 10:00-13:00

場 所

小白川キャンパス 基盤教育棟3号館
共創アトリエ

発表者

高校生

参加者

一般(保護者の方も参加できます)

定員

50名程度

(高校生、一般、
研究者を含む)

発表方法

ラウンドテーブル形式とし、探究活動等で地域活動や地域調査で用いたスライドや成果物を持参し、他校の生徒や一般の方々に5分程度で紹介した後、テーブル内で質疑応答します。個人・グループどちらでも参加できますが、グループの場合はメンバー全員が各自説明できるように準備してきてください。グループで活動したが個人で参加する場合には、グループメンバーの許可を得た上でご参加ください。事前の資料提出や発表練習等の必要はございませんので、お気軽にご参加ください。

概 要

1 基調講演・パネルディスカッション

10:00-11:00

- ▶ 基調講演 「社会共創で描く近未来の山形」 大森 桂 副学長
やまがた社会共創プラットフォーム
戦略会議委員長
- ▶ パネルディスカッション

2 活動報告会(ラウンドテーブル形式の高校生の発表)

11:00-12:00

地域活動や地域調査についてスライド等を用い5分程度で紹介
※ラウンドテーブルには高校生以外に研究者、一般の方が入ります

3 交流会 & 個別相談会

12:00-13:00

飲料とお茶菓子をご準備しますので、気軽に参加者間の交流をはかります。
希望者にはデータ解析や調査方法、連携先などに関する個別相談に応じます。

4 閉会の辞

申込み方法

発表申込み(高校生のみ)

締切 2月7日(金)午後5時

<https://forms.gle/EAqbHo8qBXuQrfSa7>



参加申込み(一般参加のみ)

締切 2月7日(金)午後5時

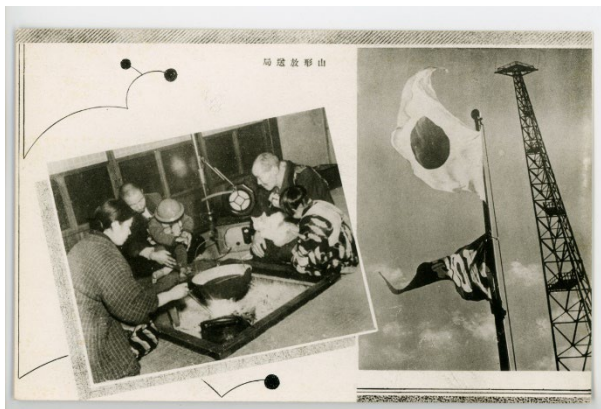
<https://forms.gle/81G1XKvAzckMgKxW9>



令和7年（2025年）1月16日

山形大学附属博物館が山形大生と地域の皆さんとともに集めた「まちの記憶」を一挙公開

今回のテーマはラジオ！「ななはく！2025 ソーレ」開催です！



〔絵葉書〕山形放送局 山形アーカイブ 001-003-00298



立川志らびーさん（立川志らく門下二つ目・山形大学卒）



宝笑亭熊水さん（山形落語愛好協会所属・山形大学大学院生）

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館は、2022年から「地域の記憶「共創」アーカイブ」事業をスタートさせました。その成果の公開と、「記憶」のさらなる収集・蓄積をすすめるためのイベント「ななはく！2025 ソーレ」を2月7～9日に七日町で実施します。6回目の今回のテーマは「ラジオ」です。
- 2023年3月に結成した学生サークル「まちの記憶を残し隊」が活動成果の報告会と特別企画を実施します。
- 「ななはく！寄席」や「まちの記憶を聞く会」を開催します。

【開催概要】（「ななはく！寄席」以外は参加無料・事前申込不要）

展示「七日町の過去・現在・未来」

日時：2月7日（金）～9日（日）10:00～16:00

会場：山形市中央公民館 4階ギャラリー（山形市七日町1-2-39アズ七日町）

「まちの記憶を残し隊」が収集した、まちの風景や人びとのインタビューを一挙公開。

VR体験もあります。

ワークショップ「和菓子レプリカづくり／ラーメン缶バッジをつくろう」

日時：2月7日（金）～9日（日）10:00～16:00

会場：N-Gate レンタルスペース（山形市七日町1-1-1）

プラスチック粘土をつかった和菓子レプリカや、ラーメンの写真を選んで缶バッジをつくれます。楽しみながらまちの歴史に触れる体験ができます。

お問い合わせ

学術研究院教授 佐藤琴（附属博物館 学芸研究員）

TEL 023-628-4930 メール koto-s@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

イベント

◆けっぱつちゃんねる

2月7日（金）19:00～20:00 会場：山形市中央公民館5階会議室4

山形大学附属博物館の佐藤琴がお送りするYouTubeによるラジオ番組です。今回のゲストは昭和小僧でおなじみのドンキー佐藤さん、はらただしさん、井上圭子さんです。※視聴URLは「ななはく！特設サイト」に掲載。

◆まちの記憶を残し隊報告会「山大生の活動を伝え鯛」

2月8日（土）10:00～12:00 会場：5階視聴覚室

山形大学公認サークルまちの記憶を残し隊が今年度の成果を発表します！



◆ななはく！寄席

2月8日（土）17:30～20:00 お食事代2800円・要事前申込

出演：立川志らぴーさん（立川志らく門下二つ目・山形大学卒）

宝笑亭熊水さん（山形大学大学院生・学生落語家）

◆まちの記憶を聞く会

2月9日（日）15:00～16:00

話者：玉井優さん（山形コミュニティ放送株式会社 代表取締役社長）

◆ボローニャ^{いち}市

第1会場の山形市中央公民館4階ギャラリー、第2会場のN-Gateをまわって、七日町の飲食店で食事をしてスタンプを集めるとボローニャ大学グッズもしくは山形大学グッズがもらえます。（先着100名様）

引換期間：2月7日（土）～9日（日）10:00～16:00

引換場所：山形市中央公民館4階ギャラリー

【お問い合わせ】

山形アーカイブ実行委員会事務局 山形大学附属博物館 佐藤琴

電話：023-628-4930

メール：nanahaku.yamagata@gmail.com

【主催等】

主催：山形アーカイブ実行委員会

共催：山形まちづくり株式会社・山形大学附属博物館

協力：合同会社AMANE・Cord for History

助成：令和6年度文化庁Innovate MUSEUM事業

令和6年度山形大学校友会支援事業

令和6年度文部科学省「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」

令和7年（2025年）1月16日

卒業・修了研究作品展2025「積み木」を開催します

【本件のポイント】

- 美術系研究室に所属する学部4年生7名と大学院2年生1名による卒業・修了研究作品展2025を開催。
- 東根市公益文化施設まなびあテラスを会場に絵画作品やデジタルツールを活用した作品など約70点を展示。
- 今年度は「積み木」をテーマとし作品展のメインビジュアルに反映。

【概要】

山形大学地域教育文化学部文化創生コース及び大学院社会文化創造研究科芸術・スポーツ科学コースでは、2025年2月8日（土）より、東根市公益文化施設まなびあテラスにて卒業・修了研究作品展2025「積み木」を開催いたします。

当作品展では、美術系研究室に所属する学部4年生7名と大学院2年生1名が卒業・修了研究として制作した作品を展示いたします。今年度は、月ごとの感覚を配色で表した絵画作品、デジタルペイントや3Dモデリングなどを活用した作品、魔術的要素に焦点をあてた作品など約70点の展示を予定です。また、ご来場いただいた方々が作品についてより深く知っていただけるよう、制作過程に関する解説パネルなどの設置も行います。さらに、2月9日（日）には出展者が作品について解説する「ギャラリートーク」も開催予定です。

今年度は『積み木（つみぎ）』をテーマとしております。「これまで得てきた学びや経験を一つ一つの積み木にたとえ、それらを積み上げて一つの作品という形にする」という思いを込め、作品展のメインビジュアルに反映しています（4年 早水京華が制作）。出展者それぞれの表現や思いが詰め込まれた個性豊かな作品をぜひ会場でご覧ください。

【開催情報】◎SNSにて最新情報を順次公開していきます。

日 時：2025年2月8日（土）～2月16日（日）10：00～17：00 ※2月10日（月）は休館日

〈ギャラリートーク 2月9日（日）14：00～15：00〉

場 所：東根市公益文化施設 まなびあテラス 市民ギャラリー

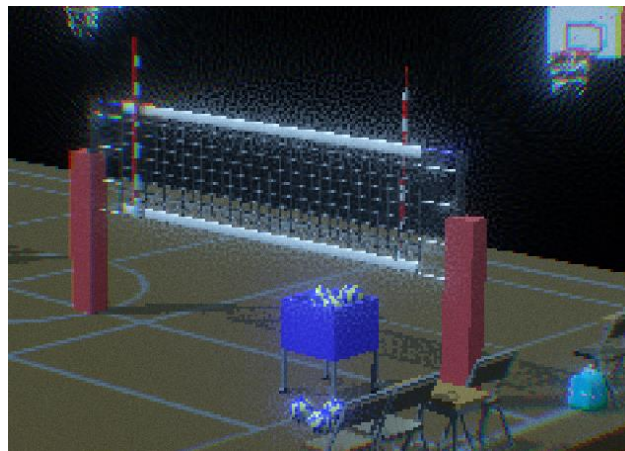
〒999-3730 山形県東根市中央南1丁目7-3

入場料：無料

【作品介绍】



《めこめこ観察日記》（4年 阿部 希乃風）



「ローポリゴンをういた懐古的表現」（4年 石川 小春）

X



Instagram



お問い合わせ

山形大学 地域教育文化学部文化創生コース

山形大学大学院 社会文化創造研究科芸術・スポーツ科学コース

山形大学卒業・修了研究作品展2025 実行委員会

メール yamagatauniv.art@gmail.com

地域教育文化学部地域教育文化学科
文化創生コース卒業研究作品展
大学院社会文化創造研究科
芸術・スポーツ科学コース修了研究作品展

積み木

山形大学卒業制作展 2025

東根市公益文化施設
まなびあテラス 市民ギャラリー

2.8 (土) - 2.16 (日) 10:00 ~ 17:00

※2月10日(月) 休館

入場無料 ギャラリートーク 2月9日(日) 14:00 ~

【主催】
山形大学地域教育文化学部文化創生コース
山形大学大学院社会文化創造研究科芸術・スポーツ科学コース
山形大学卒業・修了研究作品展 2025 実行委員会

【お問い合わせ】
yamagatauniv.art@gmail.com

※お祝いのお花は会場の都合でご遠慮いただいております。



概要



●内容

美術系研究室に所属する

学部生・大学院生による**美術作品の展示**

〉 卒業・修了研究として制作した作品を約70点展示 〉

●会期

2月8日（土）—2月16日（日）

〉 開場 10：00—17：00 〉

●会場

東根市公益文化施設まなびあテラス

〉 市民ギャラリー 〈

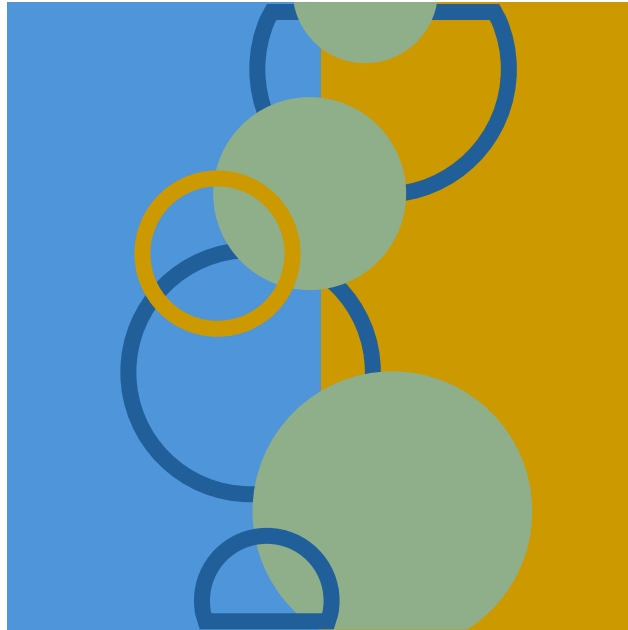
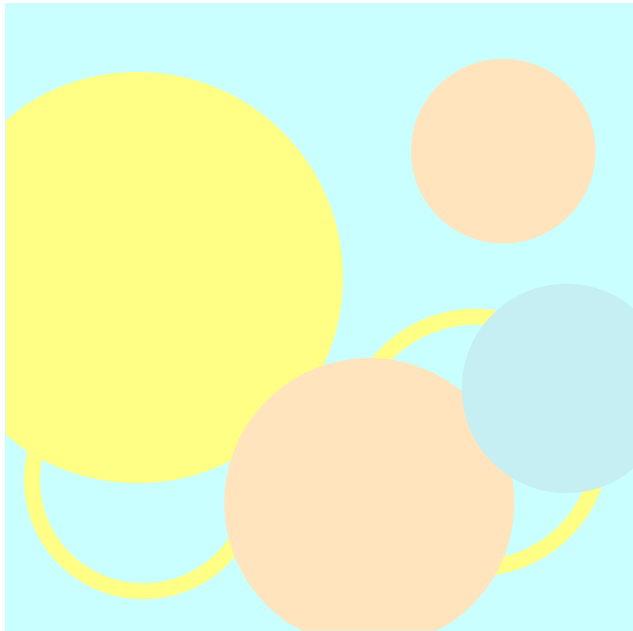
●お知らせ

2月9日（日） 14：00～15：00

会場内でギャラリートークを開催！

作品紹介





「感覚を表現するための配色の研究」（4年 高橋そら）

…太陽の眩しさ，空気の冷たさ。日常の感覚を色で表現するならば何色か。

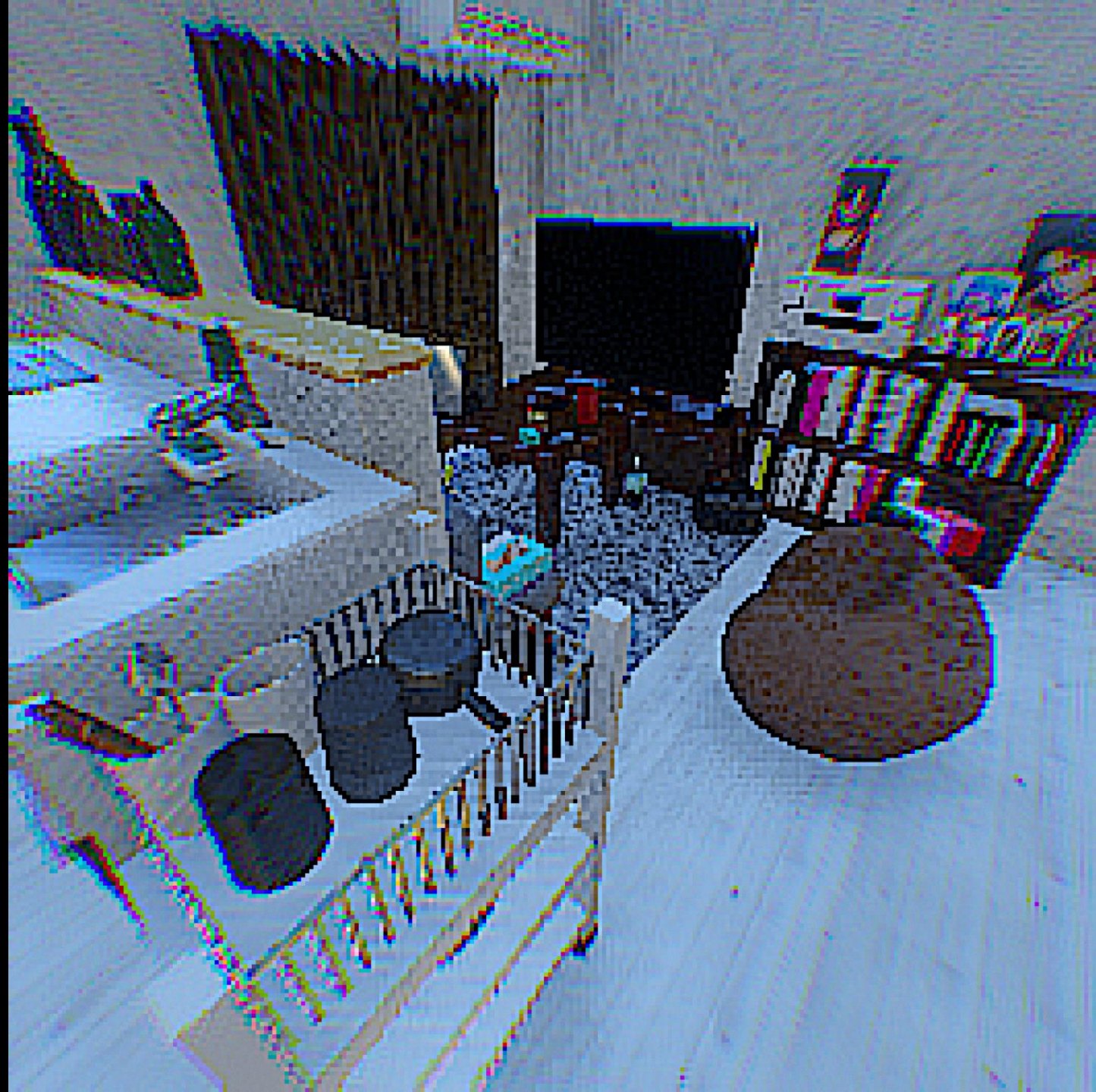
《めこめこ観察日記》（4年 阿部希乃風）

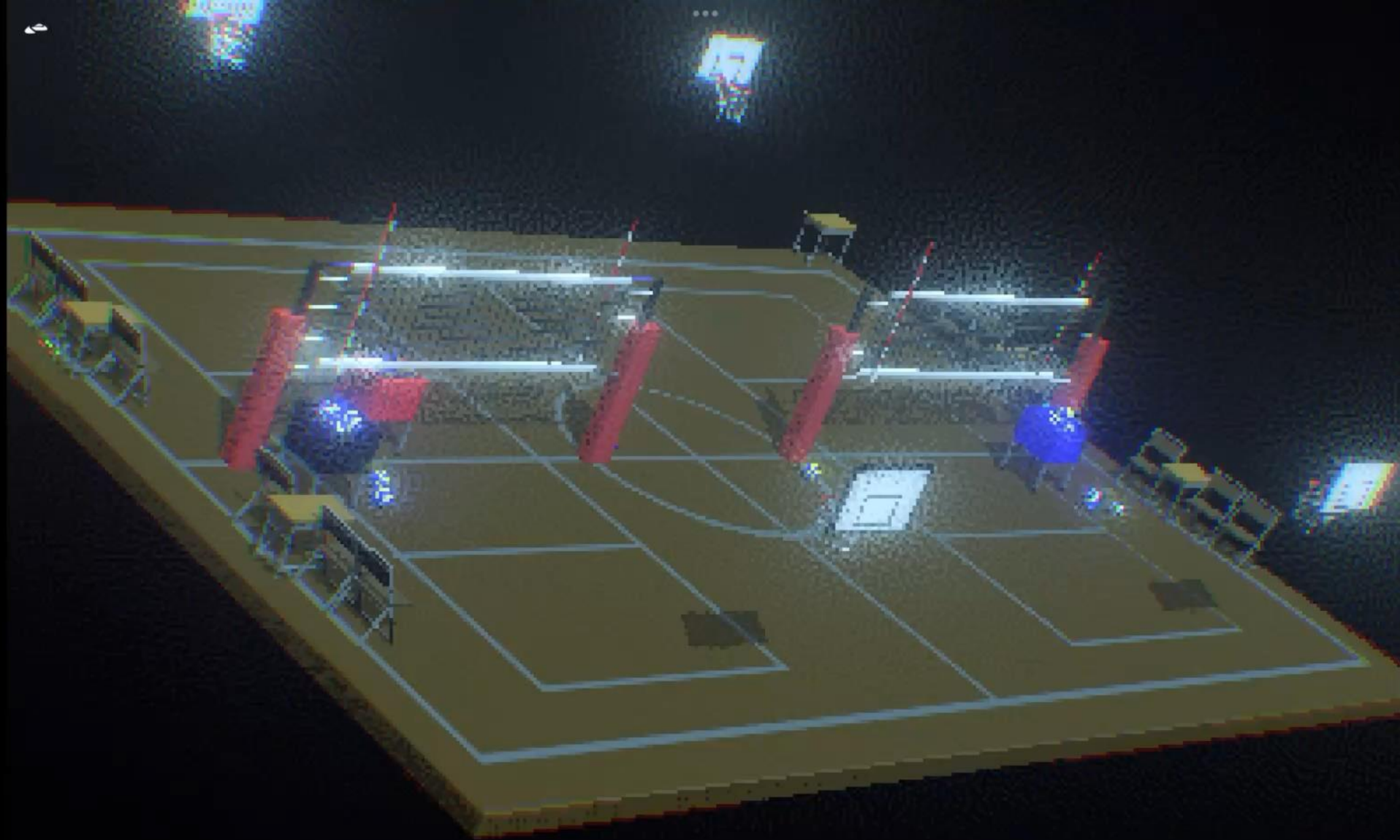
…特殊生命体「めこめこ」の観察記録。一体彼らは何者なのか。



「ローポリゴンを用いた懐古的表現」（4年 石川 小春）

…現実から抜け出し、記憶の中にある過去の空間を3Dモデリング化。





令和7年（2025年）1月16日

伊達政宗発給の最古の文書再考 ～政宗花押編年の見直しを通じて～ 名誉教授松尾剛次

【本件のポイント】

- 名誉教授の松尾は、天正11（1583）・12（1584）年の伊達政宗花押（サインのこと）編年の見直しを行った。従来、天正12年8月14日付とされた政宗文書が天正11年の文書であることを明らかにし、それと同じ花押が据えられた8月13日付の政宗文書が政宗発給の最古の文書であることを明らかにした。
- 伊達政宗の家督継承前後の文書は少なく、花押編年に依拠して発給年代が決定されてきたが、本研究により、天正11・12年の花押編年が変わることになる。それにより、伊達政宗研究、ひいては奥羽戦国史研究の深化が期待される。



（左）第二型花押 （右）第一型花押

【概要】

伊達政宗が、家督を継承した天正12年（1584）10月前後の文書は、数が少ないだけでなく、年付けのないものばかりである。それゆえ、花押変化に注目して、年付けが決められてきた。それは、政宗が、ある花押を一旦使用すると、以前の花押を使用しないと考えられたからである。従来、写真右の第一型花押は天正12年4月3日から19日まで使用されたとする。写真の第二型花押が使われたとされる時期は、天正12年の8月13日より、同年11月24日までとする。しかし、第一型花押は、天正12年10月12日付文書に見える。すなわち、第二型花押使用時期に、以前の第一型花押が使用されていたことになる。そこで、花押編年を再考した。とりわけ、8月14日付田村清顕宛輝宗・政宗連署状は、家督を継承した天正12年10月以前の文書であるが、第二型花押が使用されているので内容を検討したところ、天正11年（1583）の文書とすべきと考えた。これにより、第二型花押は第一型花押以前、すなわち天正11年に使用されたと考えるべきで、私見では、従来の第一型花押が天正12年に使用されていたと考えられる。その結果、天正11年（1584）8月13日付の政宗文書が最古の政宗文書となるなど、政宗家督継承前後の、発給年が大きく変化することになる。

【背景】

天正11年から12年にかけては、織田信長の死去により、織田政権内部の権力闘争が激化し、中央権力の空白期が生まれた。それにともない、奥羽においても伊達、最上、蘆名といった有力な戦国大名による争いが激化した。伊達政宗にとっては家督継承前後の時期で、田村、大内ら有力な国人領主を支配下におさめるべく活動していた時期である。それゆえ、その時期の研究を深化させる必要は大きい。しかし、その時期の文書は、数が少ないだけでなく、年付けのないものばかりで、花押編年（花押の変化）で、文書の年代が決められてきた。

【研究手法・研究成果】

研究手法としては、第一型花押が据えられた天正12年8月の文書の内容の見直しなどを通じて、それが天正11年の文書であることを明らかにした。

【今後の展望】

この研究により、伊達政宗家督編年が大きく変化し、それにより政宗の天正11年発給の文書の存在が明らかとなった。すなわち、従来不明であった、天正11・12年の状況がより明らかになり、奥羽戦国史の見直しがなされることになる。

※用語解説

1. 田村清顕：？～1586、戦国時代の武将。室は相馬顕胤の娘。父は田村隆顕、母は伊達植宗の娘。政宗の正室・愛姫（1568-1653）の父。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

お問い合わせ 山形大学都市・地域学研究ユニット 名誉教授 松尾剛次 TEL 023-628-4871 kenji214@hotmail.com

令和7年（2025年）1月16日

大正3年2月16日の蔵王山冬期初登頂関連の新資料が見つかりました

（前篇）初登頂した神山峯吉氏・山形師範学校

【本件のポイント】

- 山形師範学校の神山峯吉らは大正3年（1914年）1月8日から18日まで大石田で行われたスキー講習会に参加しました。
- 大正3年2月16日、神山峯吉らはスキー（一本杖）により、岡崎弥三郎らは徒歩（カンジキ）により蔵王山冬期初登頂を行いました。
- 神山峯吉による、1960年頃の講演、および、1962年の手記「五十年前の蔵王初登頂」によって蔵王山冬期初登頂が一般に知られるようになりました。



蔵王山冬期初登頂記念の絵葉書

【概要】

山形師範学校の神山峯吉らは大正3年（1914年）1月8日から18日まで大石田で行われたスキー講習会に参加しました。大正3年2月16日、村井太郎・黒田毅・神山峯吉・八木藤次郎・五十嵐竹次郎らはスキー（一本杖）により、岡崎弥三郎、岡崎条太郎、斎藤源吉、伊東重次郎、伊藤英雄らは徒歩（カンジキ）により蔵王山冬期初登頂し、樹氷を発見しました。しかし、蔵王スキー登山は大正10年1月に宮城県側から踏破した慶応大学の鹿子木員信らが初めてであるとされていました。神山峯吉による1960年頃の栃木県高校社会科教育研究会での講演や、1962年に出版された「蔵王五十年の歩み（伊藤五郎著）」に所載の神山峯吉の手記「五十年前の蔵王初登頂」によって神山峯吉らによる蔵王山冬期初登頂が一般に知られるようになりました。

【これまでの経緯】

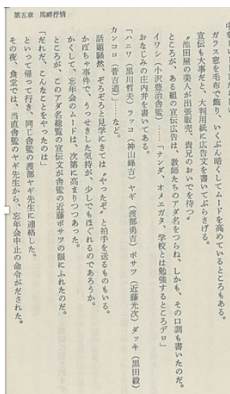
大正3年2月16日、村井太郎・黒田毅・神山峯吉・八木藤次郎・五十嵐竹次郎ら5名によって蔵王山冬期初登頂が行われ、樹氷が発見されました。初登頂については、神山峯吉氏による手記「五十年前の蔵王初登頂」（蔵王五十年の歩み 1962年 伊藤五郎著）が残されています。しかし、神山峯吉氏ご自身や初登頂前後の状況は知られておりませんでした。また、2019年、神山峯吉氏のお孫様から、祖父が樹氷を発見したと伝わっているが、家に何も資料は残っていないので、祖父について知りたいとのご相談を受けました。手持ちの資料をお送りすると共に、調査を行い、神山峯吉氏・蔵王山冬期初登頂・山形師範学校・山形スキー倶楽部に関する新たな資料が見つかりました。

【神山峯吉氏、蔵王山冬期初登頂、山形師範学校、山形スキー倶楽部などについて】

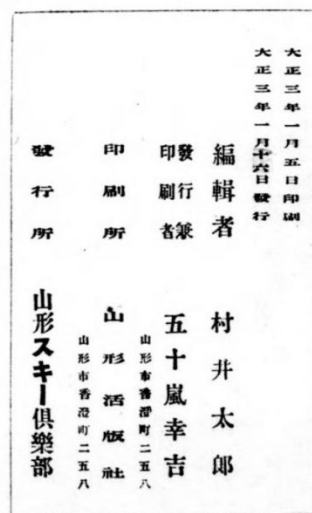
- *明治15年（1882年）5月 栃木県でお生まれになりました。
- *明治40年（1907年）3月 栃木県師範学校を卒業し、小学校・高等小学校で教鞭をとっていました。
- *明治42年（1909年）4月 東京高等師範学校（現在の筑波大学）の文科兼修体操専修科国語漢文兼修に入学しました。
- *大正2年（1913年）3月 東京高等師範学校を卒業し、中学校教諭（体育・国語・漢文）の免許状を取得しました（官報 1913年05月10日 教員免許状授與）。

（お問合せ先）

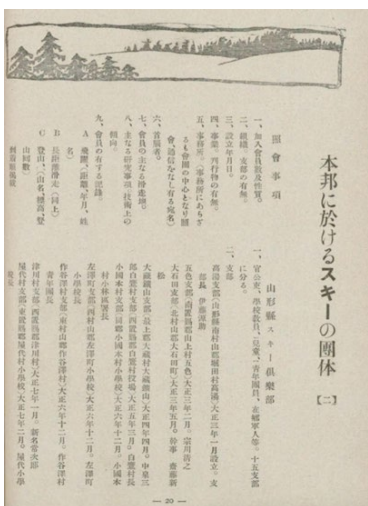
山形大学名誉教授 柳澤文孝（環境科学）
メール icemonster.white(at)gmail.com



*大正3年(1914年)1月 スキー(村井太郎編)が山形スキー倶楽部より出版されました。



*大正3年（1914年）1月 「山形スキー倶楽部」の高湯支部が設立されました（山とスキー 1921年）。



*大正3年（1914年）1月8日から18日まで 大石田において山形県教育会主催で第一回スキー講習会が開催されました（山形県スキーの変遷 1982年 岩田栄蔵著）。講師は山形連隊の村井太郎中尉で、助手として山形師範学校から黒田毅、神山峯吉、八木藤次郎が、山形スキー倶楽部付属スキー工場から五十嵐竹次郎らが参加されました（蔵王五十年の歩 1962年 伊藤五郎著）。なお、使用されたスキーは一本杖でした。

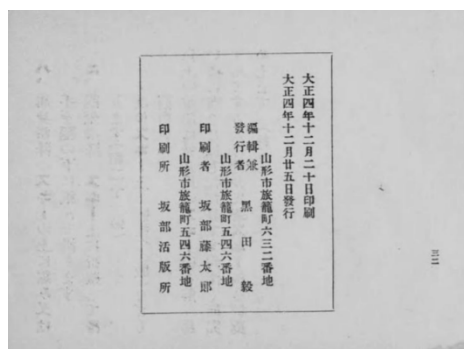
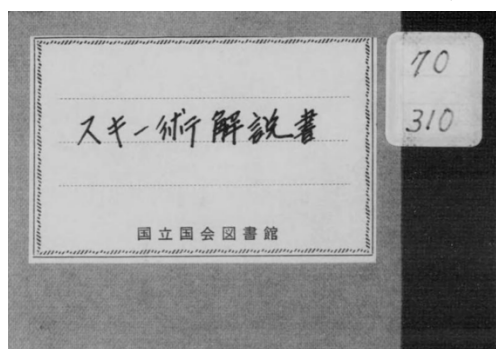
○大正3年1月8日～18日(10日間)県主催の第1回スキー講習会を大石田小山スキー場で開催。
 (受講者59者……上村伊三郎, 小林美雄, 横尾耕生, 東海林市四郎, 栗原徳太郎, 原田中庸, 藤田彦作, 加藤元助, 岡崎三郎, 佐藤庄作, 守谷永友, 松平末吉, 和田正彦, 土屋伴, 高橋岩司, 白田金兵工, 佐藤信江, 矢作久米之助, 奥山貞吉, 小倉巖, 上野勝三, 遠藤七三郎, 遠藤清吉, 伊藤与作, 会田清治, 佐藤武一郎, 相馬市太郎, 大類吉郎, 居駒永胤, 森庸之助, 延沢徳丸, 笹原忠次郎, 大場銀五郎, 生亀新十郎, 阿部通男, 森広吉, 太田匡, 寺崎連蔵, 二藤部喜一郎, 渡辺覚太郎, 安孫子忠吉, 阿部金太郎, 草刈武夫, 有路喜次郎, 二藤部国太郎, 高田鋭太郎, 松坂松次郎, 西塚享太郎, 伊藤三郎, 三宅喜助, 溝越仁繁, 川島仁三, 佐々木寿珊)。

*大正3年(1914年)2月15日 村井太郎・黒田毅・八木藤次郎・神山峰吉・五十嵐竹次郎らはスキー(一本杖)により、案内者である岡崎弥三郎、岡崎条太郎、斎藤源吉、伊東重次郎、伊藤英雄らは徒歩(カンジキ)により蔵王山冬期初登頂をして、樹氷(アイスモンスター)を発見しました(蔵王五十年の歩み 1962年 伊藤五郎著)。なお、当時、樹氷は雪の坊、雪瘤、雪娘などと呼ばれました。

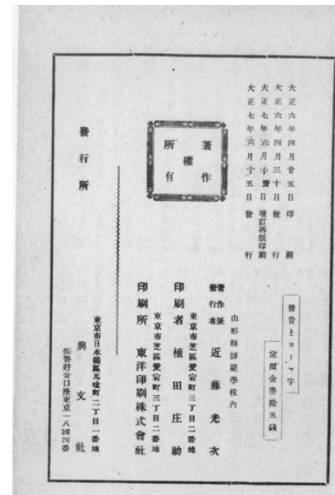
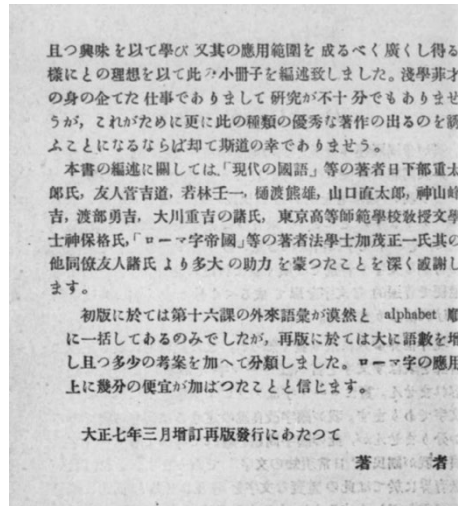


* 大正3年2月17日 山形新聞は「雪中の蔵王登山 スキー倶楽部の壮挙」と題して「本県スキー倶楽部員村井中尉、神山師範学校教諭其他のスキー隊一行五名は蔵王登山壮挙の目的にて十四日午後山形市を出発も南村山郡堀田村高湯温泉に趣き一泊の上翌十五萬端の準備を整へ一同結束し旅舎を立出で正午愈登山の途に就きたるが萬端を排して首尾よく目的地たる頂上に達し萬歳を唱て意気揚々午後三時過無事下山したり尚詳細は追って報道すべし」と報じています。

*大正4年(1915年)12月 スキー解説書(黒田毅著)が出版されました。



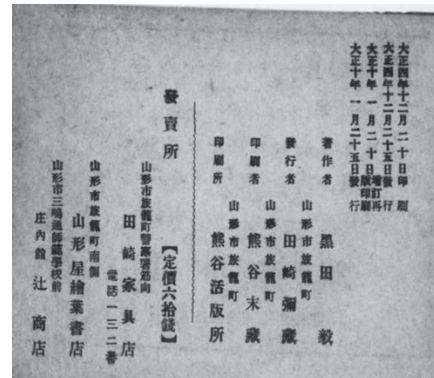
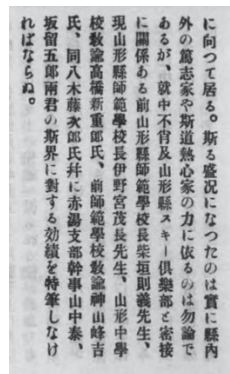
*大正6年(1917年) 発音とローマ字(山形師範学校 近藤光次著)に協力しました。



＊大正8年（1919年）～10年（1921年） 岐阜県の師範学校等に勤務されました。

＊大正10年（1921年）1月8日 慶応大学山岳部の鹿子木員信・橋本静一・佐藤文二・豊辺国臣・大島亮吉・山県正章・早川種三らによって蔵王山冬期初踏破がなされました。1月10日の朝日新聞東京版では「熊野岳の初踏破 鹿子木教授等のスキー隊員」、同日の読売新聞全国版では「鹿子木氏等スキーで蔵王嶽を踏破す 吹雪で道に迷う」、1月11日の山形新聞では「蔵王突破の慶大スキー隊に就き 鹿子木教授談」と報じられています。また、慶応大学山岳部の部報である「登高行」3年（1921年6月）に、初めて撮影された樹氷の写真と、早川種三氏による手記「冬の蔵王越え」が掲載されました。この手記では初めて「樹氷」と呼ばれました（「これまでで最も古い大正10年の蔵王のアイスモンスターの写真が見つかりました」 山形大学定例記者会見 2017年3月21日 柳澤文孝）。

＊大正10年（1921年）のスキー術解説（黒田毅著）、大正13年（1924年）のスキー術解説 増訂3版（黒田毅著）に協力しています。なお、前者は単杖（一本杖）、後者は単杖と複杖でした。



＊大正11年1月5日 山形スキー倶楽部の三名（三沢市太郎、新関芳蔵、豊田寅治）が熊野岳に登頂しました。

＊大正11年（1922年）から栃木県の足利や鹿沼の学校に勤務されました。昭和6年（1931年）～13年（1938年）鹿沼農商学校校長をされ（栃木県教育史 1986年 栃木県教育史編纂会編）、昭和13年に退職されました。

＊1960年頃 神山峯吉氏は、「山形師範学校に居た時に（大正三年冬）軍人や同僚たち五人で蔵王山へスキーで登った」ことを栃木県高校社会科教育研究会で発表しました（体育史学会 第3回学会大会 2014年 土屋春夫）。

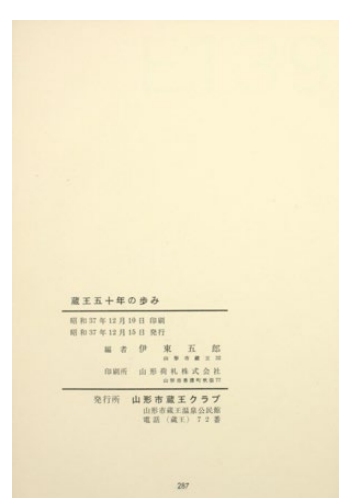
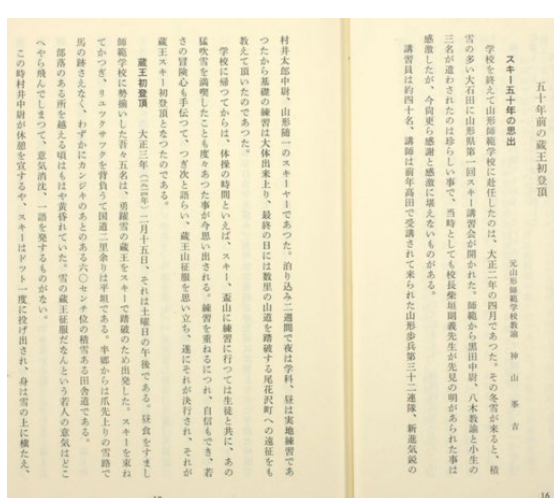
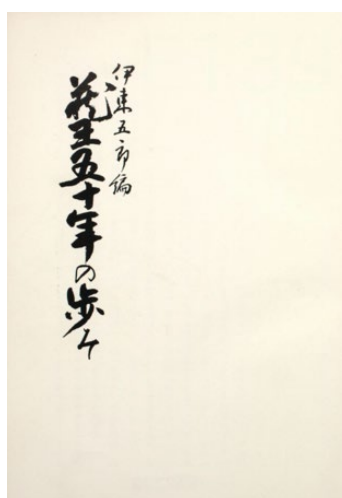
＊昭和34年（1959年）伊藤五郎氏は、蔵王五十年の歩み（1962年）に「昭和34年国体スキー大会が蔵王に開催された時、元師範学校教師であった居駒永雄氏（神山先生の教子）の案内で神山先生七十歳の老齢をひっさげて、わざわざ栃木県鹿沼市より参列、蔵王に登られ、当時を追懐して 現在の蔵王を觀て、恰も浦島太郎の生き返りのよ

うな感がすると、さも感慨深く話され、当時の記念写真を見せてくれましたが、地元の一行がほとんど物故され、残った者はわずかであった。」と記述しています。

＊昭和37年（1962年）8月 伊藤五郎は、蔵王五十年の歩み（1962年）に「大石田講習状況は、幸い本年（昭和37年）八月、元師範学校教諭神山峯吉先生が八十幾歳の高齢をもって、五十嵐竹次郎氏同伴、元同校教諭居駒永雄氏の案内でわざわざ蔵王温泉まで足を運ばれ、当時のスキー資料全部を提供された事は、本県スキーの歴史を知る上に真に喜びとするところである。」と記載しています。しかし、寄付先は分かっておりません。

＊昭和37年（1962年）11月15日 逝去されました（栃木年鑑 昭和39年版 栃木新聞社）。

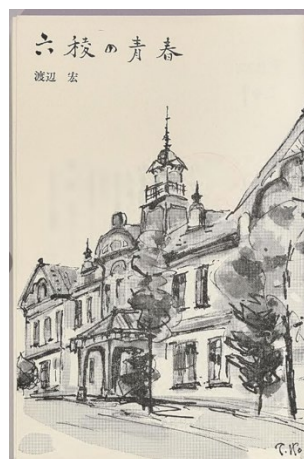
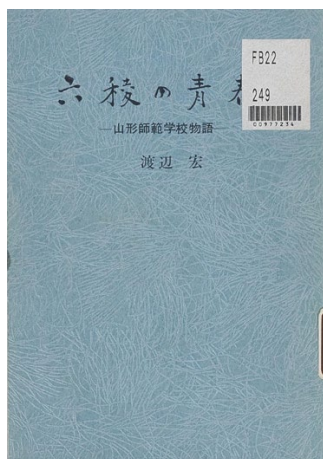
＊昭和37年（1962年）12月 「蔵王五十年の歩み（1962年 伊藤五郎著）」に神山峯吉による手記「五十年前の蔵王初登頂」が掲載されました。この手記によって神山峯吉らによる蔵王冬期初登頂が一般に知られるようになりました。



「・・・大正三年（1914年）二月十五日、それは土曜日の午後である。昼食をすまして師範学校（注：現在の山形県立博物館分館 教育資料館）に揃いした吾々五名は、勇躍雪の蔵王をスキー（注：一本杖）で踏破のため出発した。・・・温泉に一泊した元気潑刺たる若人吾々五名は、地元の新進の青年の案内者五名（注：岡崎弥三郎、岡崎条太郎、斎藤源吉、伊東重次郎、伊藤英雄）を頼み、蔵王初登頂を決行すべく午前七時所定の所に集合して記念撮影をする。・・・カンジキの案内者は目標を定めて一直線に登る。スキーヤーは電光形登りで、到着はほとんど同時である。・・・吹雪の衰えた時々、歩行しながら食事をしながら行く。・・・見れば樹氷の態姿威容様々で、怒れる如く笑えるあり、伏せるあり、寝たるあり、戯れるあり、児孫を抱ける如く、千姿万態、実に筆舌の及ぶところでない。真に壮絶快絶で、月の世界も斯くやと茫然自失の状態であった。・・・すでにして案内者から頂上近しと伝達あり、漸く吾にかえり、勇を鼓し激励しつつ突進するや、之れ将に熊野岳頂上と意見が一致したので、全員歓喜雀躍手を執って喜び、成功の万歳を三唱、天も裂けよと呼ばわった。ここに村井太郎、黒田毅、八木藤次郎、五十嵐竹次郎、神山峯吉の氏名と年月日を記した柱を樹てて下山した・・・苦心惨胆五時間有余を費して登った雪路を麓について見れば費やすこと約三十分であった。・・・待つ程に若い案内者の五名は約四時間の後、六時頃無事帰着され安心すると、夜は温泉多数有志の方々が初登頂の成功を祝され記念大祝賀会を催されてくつろいで語り合った。・・・」

＊昭和44年（1969年） 山崎安治は「日本登山史（白水社）」に「蔵王五十年の歩み（1962年 伊藤五郎著）」に所載の神山峯吉による手記「五十年前の蔵王初登頂」を引用して「東北地方では、高田市でスキーの講習を受けた山形連隊の村井太郎中尉一行により大正三年（1914）山形側から蔵王岳スキー初登頂が記録された。一行は村井中尉ほか黒田毅、神山峯吉、八木藤次郎、五十嵐竹次郎の五人で大正三年二月十六日、岡崎弥三郎ら地元青年団五人を案内に八間石に出て、井戸倉の硫黄鉱山を経、大嶺から森林地帯にはいり、大黒岳、地藏岳に登って、さらにワサ小屋から千八百四十メートルの最高峰熊野岳のスキー登山に成功した。」と記載しています。

＊昭和 47 年（1972 年） 渡辺宏は「蔵王五十年の歩み（1962 年 伊藤五郎著）」に所載の神山峯吉による手記「五十年前の蔵王初登頂」を参考にして「六稜の青春～山形師範学校物語」に「蔵王山初登頂」が執筆しました。



令和7年(2025年)1月16日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 令和7年度大学入学共通テストの取材について ～大学入学共通テストの円滑な実施に御協力をお願いします～

本件については、令和7年1月7日（火）に報道各社にFAXにてお知らせしておりますが、山形大学では、小白川キャンパス、米沢キャンパス、県立鶴岡中央高等学校、県立新庄神室産業高等学校の4会場で実施します。取材される場合は、1月16日（木）正午までに各試験場担当者に御連絡願います。

2. 「ヤマガタステム（STEM）アカデミー」の受講生が研究成果の発表を行います

文部科学省指定のジュニアドクター育成塾「ヤマガタステム（STEM）アカデミー」では、2年目以降の「ドクターコース」受講生が、自ら設定したテーマに基づいて研究を進めています。ドクターコースに所属する小学6年生から中学3年生の受講生たちが、それぞれの興味や関心に基づいて設定したテーマについて、これまで取り組んできた研究成果をポスター発表形式で披露します。

【開催要項】

- ◆日 時：令和7年2月11日（火） 13:00～15:20 ◆会 場：霞城セントラル 1階 アトリウム
- ◆参加費：無料 ◆対 象：どなたでも

3. 【学生チャレンジプロジェクト】舟形町の野菜を用いた学食提供について～舟形満腹プロジェクトで地域を元気に～

本プロジェクトは山形大学の基盤共通教育、基幹科目「フィールドラーニング―共生の森もがみ」の講義を受講した1年生を中心に有志で結成したプロジェクトです。講義を通じて少子高齢化や人口減少などによる農業従事者や担い手の減少という舟形町の抱える農業課題に直面。課題解決のための一案として、「山形大学学生チャレンジプロジェクト」を活用し、令和7年1月20日（月）から22日（水）の期間、山形大学厚生会館食堂において、舟形町で生産された米や旬の野菜を用いた、安価でたくさん食べることができる日替わりの定食を提供することとなりました（数量限定）。学食利用を通して山形大学生に舟形町へ興味を持ってもらい、地域交流や地域課題などにも関心をもってもらうとともに、ポスターの掲示や舟形町堀内地区の紹介チラシの配布を行い、より多くの人が舟形町を知るきっかけを作りたいと考えています。

4. 「日本列島はすごい～山形もすごい」～大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話 2025」を開催～

「大学コンソーシアムやまがた」では、県民の皆様に様々なテーマをわかりやすく解説する「やまがた夜話」を開催します。今年度は、茨城大学から新書『日本列島はすごい』の著者である伊藤孝教授、山形大学から大友幸子名誉教授、伴雅雄教授をお招きして「日本列島はすごい～山形もすごい」をテーマに2月19日から3回シリーズで開講。日本列島の位置づけから、山形県の火山や景観など貴重な「財産」を地学の視点で学び、考える機会とします。

- ◆日時：<1回目>2月19日（水）18:00-19:00 「山形の「財産」を地学の眼で見よう」
講師：茨城大学教育学部教授 伊藤 孝 氏（山形大学理学部卒）
- <2回目>3月 4日（火）18:00-19:00 「やまがた百名山の火山（鳥海山、蔵王山、吾妻山など）のすごさ」 講師：山形大学理学部教授 伴 雅雄 氏
- <3回目>3月19日（水）18:00-19:00 「山形でいつも見ている景色も実はすごい―大地の歴史を語る―」 講師：山形大学名誉教授 大友 幸子 氏
- ◆会場：山形大学理学部S401教室（ふすまホール）
- ◆対象：高校生・学生・一般市民 定員180名、オンライン併用（参加費無料）

令和7年1月16日

令和7年度大学入学共通テストの取材について ～大学入学共通テストの円滑な実施に御協力をお願いします～

【本件のポイント】

- 山形大学では、小白川キャンパス、米沢キャンパス、県立鶴岡中央高等学校、県立新庄神室産業高等学校の4会場で大学入学共通テストを実施します。
- 取材される場合は、1月16日（木）正午までに各試験場担当者に御連絡願います。

※本件については、令和7年1月7日（火）に報道各社にFAXにてお知らせしております。

【概要】

令和7年度大学入学共通テストは、1月18日（土）、19日（日）に全国の大学入学共通テスト利用大学等を会場として実施されます。

本学では、小白川地区試験場（小白川キャンパス）、工学部試験場（米沢キャンパス）、県立鶴岡中央高等学校試験場（鶴岡市）、県立新庄神室産業高等学校試験場（新庄市）で実施します。

取材に当たっては、事前に各試験場責任者の許可を得た上で行っていただきますよう、試験の円滑な実施にご協力をお願いします。



【志願者数】

小白川地区試験場：1,739人
工学部試験場：650人
県立鶴岡中央高等学校試験場：456人
県立新庄神室産業高等学校試験場：186人

【小白川地区試験場の取材について】

- 1月18日（土）午前9時から試験室内での撮影をされる場合は、1月16日（木）正午（厳守）までに小白川キャンパス事務部入試課に事前連絡の上、以下の申込フォームよりお申し込みください。

<令和7年度大学入学共通テスト小白川地区試験場取材申込フォーム>
<https://forms.office.com/r/q8MpEiF5xL>



当日の集合場所等の詳細については、申込フォームからお申し込みいただいた方にのみお知らせします。

※試験場での取材・撮影のお申し込みは、1月16日（木）正午までに各試験場担当者までお申し込み願います。

お問い合わせ

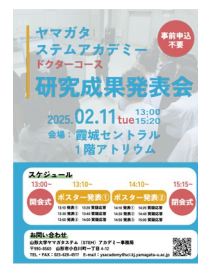
山形大学エンrollment・マネジメント部入試課
片桐・鈴木
TEL 023-628-4140

令和7年（2025年）1月16日

「ヤマガタステム（STEM）アカデミー」の受講生が 研究成果の発表を行います

【本件のポイント】

- ジュニアドクター育成塾 受講生が、以下の日程で「ヤマガタステムアカデミー ドクターコース研究成果発表会」を開催いたします。
- 今年度は、より多くの皆さまに受講生の研究成果をご覧いただけるよう、会場を霞城セントラルに移し、広く公開いたします。
- サイエンスカンファレンス2024や山形県探究型学習課題研究発表会で入賞した研究もご紹介します。



【概要】

文部科学省指定のジュニアドクター育成塾「ヤマガタステム（STEM）アカデミー」では、2年目以降の「ドクターコース」受講生が、自ら設定したテーマに基づいて研究を進めています。ドクターコースに所属する小学6年生から中学3年生の受講生たちが、それぞれの興味や関心に基づいて設定したテーマについて、これまで取り組んできた研究成果をポスター発表形式で披露します。是非ご覧ください。

【開催要項】

日 時：令和7年2月11日（火） 13:00～15:20

13:00～13:05 開会式

13:10～14:10 ポスター発表 1

14:10～15:10 ポスター発表 2

15:15～15:20 閉会式

会 場：霞城セントラル 1階 アトリウム

参加費：無料

対 象：どなたでも

※1 ヤマガタステム(STEM)アカデミー

県内及び隣県の小学5・6年生及び中学生を対象にした、持続可能でよりよい社会（SDGs）を目指すために必要な科学技術（STEM ※2）を理解し、人類の未来に役立つ産業を生み出す、想像力豊かな理系人材を育成するプログラムです。理科・算数・数学好きの小中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を伸ばすプログラムを、山形大学と連携機関が提供しています。国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「ジュニアドクター育成塾」として、令和2年度（2020年度）からスタートし、今年度はプロジェクト最終年度の5年目となります。山形県内及び仙台市周辺の小学5年生から中学3年生を対象に公募し、第1段階（マスターコース）の受講生40名を選抜します。翌年度は、マスターコースの受講生の中から第2段階（ドクターコース）10名を選抜し、自分の興味のある研究テーマについて研究を行います。ドクターコースは現在21名が受講しています。

※2 S T E M

米国教育省（U.S Department of Education、2015）において、これからの人材育成には、何を知っているかではなく、知っていることを通じて何ができるか、検証したエビデンスに基づいて問題を解決できるか、という能力の育成が必要であり、そのためには、Science（科学）/ Technology（技術）/ Engineering（工学）/ Mathematics（数学）を統合的に学ぶことが効果的であるという考え方が示されました。ヤマガタステムアカデミーでは、STEM分野について広く学ぶことができるプログラムを実施します。

<お問合せ>

山形大学 ヤマガタステムアカデミー事務局
TEL 023-628-4517（SCITAセンター内）
E-mail ysacademy@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

ヤマガタ ステムアカデミー ドクターコース

事前申込
不要

研究成果発表会

2025.02.11 tue 13:00~15:20

会場：霞城セントラル
1階アトリウム

スケジュール

13:00~

開会式

13:10~

ポスター発表①

13:10 発表① 13:20 質疑応答
13:30 発表② 13:40 質疑応答
13:50 発表③ 14:00 質疑応答

14:10~

ポスター発表②

14:10 発表① 14:20 質疑応答
14:30 発表② 14:40 質疑応答
14:50 発表③ 15:00 質疑応答

15:15~

閉会式

お問い合わせ

山形大学ヤマガタステム（STEM）アカデミー事務局

〒990-8560 山形市小白川町一丁目 4-12

TEL・FAX：023-628-4517 E-mail：ysacademy@sci.kj.yamagata-u.ac.jp



令和7年（2025年）1月16日

【学生チャレンジプロジェクト】

舟形町の野菜を用いた学食提供について ～舟形満腹プロジェクトで地域を元気に～

【本件のポイント】

- 今回「山形大学学生チャレンジプロジェクト」を利用し、山形県舟形町産の野菜を用いて令和7年1月20日（月）から22日（水）の期間、山形大学厚生会館食堂のご協力を得て定食を提供する。
- 舟形町堀内地区堀内ファーム様のご協力で、舟形町産の米や野菜、舟形の伝承野菜である西又かぶなどを使用した日替わり定食を3日間提供する。
- この学食を通じて山形大学生に舟形町へ興味を持ってもらい、地域交流や地域課題に関心をもってもらいたいと考えている。



【概要】

私たちは山形大学の基盤共通教育、基幹科目「フィールドラーニング―共生の森もがみ」の講義を受講した1年生を中心とした有志で結成したプロジェクトである。講義を通じて少子高齢化や人口減少などによる農業従事者や担い手の減少という舟形町の抱える農業課題に直面した。その課題解決のための一案として「山形大学学生チャレンジプロジェクト」を活用し、山形県舟形町の野菜を用いて令和7年1月に山形大学厚生会館食堂で定食を提供することとなった。このプロジェクトの目的として、学食利用を通して山形大学生に舟形町へ興味を持ってもらい、地域交流や地域課題などにも関心をもってもらうことを挙げる。

予定では舟形町で生産された米や旬の野菜を用いて、安価でたくさん食べることができる日替わりの学食を、数量限定で3日間限定販売をする。その際メニューを食べた人にアンケート調査を行い、料理の満足度や舟形町の認識についてデータを集計・分析し、その結果を令和6年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」にて発表する。また、学食での定食提供のほかに、ポスターの掲示や舟形町堀内地区の紹介チラシの配布を行い、より多くの人が舟形町を知るきっかけを作ろうと考えている。

【背景】

- ・山形大学の基盤共通教育、基幹科目「フィールドラーニング―共生の森もがみ」を通して舟形町の抱える農業課題に直面した。
- ・舟形町では少子高齢化や都市部への人口流出などの理由で農業従事者や担い手の数が減少し、舟形の伝承野菜の存続が厳しく、一度失ってしまった。
- ・今は堀内地区の堀内ファームにて伝承野菜の生育を行っているが、担い手がいなければこのまま伝承野菜がなくなってしまう。
- ・講義から派生したプロジェクトとして、舟形町堀内地区堀内ファーム様、山形大学厚生会館食堂様と連携してこの活動を実施する。

【今後の展望】

- ・学食での提供によって得られたデータを活用して地域課題解決の糸口を探る。
- ・今回の活動によって得られた結果を令和6年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」にて発表する予定である。

※用語解説

1. 伝承野菜（最上伝承野菜）

- ・最上地域特有で概ね昭和20年以前から存在していた野菜・豆類であり、現在も最上地域で栽培され、自家採種している野菜のことを指す。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

お問い合わせ

プロジェクト代表 諸田ほのか（理学部1年）

学術研究院 講師 阿部宇洋（歴史民俗資料学）

メール taka.abe@cc.yamagata-u.ac.jp

令和7年（2025年）1月16日

「日本列島はすごい～山形もすごい」 ～大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話 2025」を開催～

【本件のポイント】

- 「大学コンソーシアムやまがた」では、県民の皆様に様々なテーマをわかりやすく解説する「やまがた夜話」を開催
- 今年度は、茨城大学から新書『日本列島はすごい』の著者である伊藤孝教授、山形大学から大友幸子名誉教授、伴雅雄教授をお招きして「日本列島はすごい～山形もすごい」をテーマに2月19日から3回シリーズで開講
- 日本列島の位置づけから、山形県の火山や景観など貴重な「財産」を地学の視点で学び、考える機会とします。



【概要】

平成16年4月に設立され、山形県内全ての高等教育機関と山形県が加盟する「大学コンソーシアムやまがた」では、県民の皆様に様々なテーマをわかりやすく解説する「やまがた夜話（やわ）」を毎年開催しています。

今年度は、茨城大学から昨年4月初版で異例の早さで重版している新書『日本列島はすごい～水・森林・黄金を生んだ大地』の著者である伊藤孝教授（山形大学理学部卒）、山形大学から大友幸子名誉教授（地質学）、伴雅雄教授（火山学）をお招きして「日本列島はすごい～山形もすごい」をテーマに、2月19日から3回シリーズで開講します（講演無料、オンライン併用）。

日本列島の位置づけから、山形県の火山や景観など貴重な「財産」を地学の視点で学び、考える機会とします。なお、講演当日は「やまがた夜話」参加者を対象に理学部会場近くの「地球ミュージアム」を開放します。皆様、ぜひご参加ください。

- ◆日時：＜1回目＞2月19日（水）18:00-19:00 「山形の「財産」を地学の眼で見よう」
講師：茨城大学教育学部教授 伊藤 孝 氏（山形大学理学部卒）
＜2回目＞3月 4日（火）18:00-19:00
「やまがた百名山の火山（鳥海山、蔵王山、吾妻山など）のすごさ」
講師：山形大学理学部教授 伴 雅雄 氏
＜3回目＞3月19日（水）18:00-19:00
「山形でいつも見ている景色も実はすごい～大地の歴史を語る～」
講師：山形大学名誉教授 大友 幸子 氏
- ◆会場：山形大学理学部S401教室（ふすまホール）
- ◆対象：高校生・学生・一般市民 定員180名、オンライン併用（参加費無料）
【詳細は別添の資料をご覧ください。】

お問い合わせ

大学コンソーシアムやまがた事務局（総務部社会共創推進事務室） 今野・今田
TEL 023-628-4842 メール unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



YAMAGATA YA WA やまがた夜話 2025

「日本列島はすごい～山形もすごい～」



入場
無料

今回は「日本列島はすごい～山形もすごい～」をテーマにリレー形式で開催します。
初回は『日本列島はすごい』（中公新書）の著者伊藤孝氏（茨城大学教授）を、以降
伴雅雄氏（山形大学教授）、大友幸子氏（同大名誉教授）をお招きし、ご講演いただきます。

★2月19日（水）18:00～19:00 「山形の「財産」を地学の眼で見てみよう」

■講師：伊藤 孝 氏（茨城大学教授（山形大学理学部地球科学科卒））

山形の資源について、地学の視点で考えてみます。いわば「財産」です。まず、世界における日本列島の位置づけを見て、徐々に山形にクローズアップしていきます。そして、日本列島の成り立ち・歴史をひもときつつ、山形がもつ資源について考えます。地学の時間・空間スケールで考えると、全く違った「山形の姿」が浮き彫りになる、皆様にとってそんな一時となることを願っています。



★3月4日（火）18:00～19:00 「やまがた百名山の火山（鳥海山、蔵王山、吾妻山）のすごさ」

■講師：伴 雅雄 氏（山形大学教授（火山学））

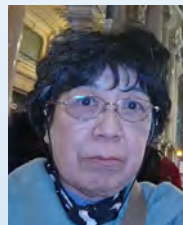
山形には成層火山である蔵王山、鳥海山、吾妻山、カルデラ火山である肘折と4つの活火山があります。さらに活火山ではありませんが月山や雁戸山など第四紀の火山は多数存在し、山形は火山密集地帯といっても過言ではないでしょう。特に蔵王山は活発で、噴火の記録も多数あり、また2013年ころから火山活動の活性化が見られ、警報も発令されました。雪が解けたら山形の火山に出向いてみたくなるお話になることを目指します。



★3月19日（水）18:00～19:00 「山形でいつも見ている景色も実はすごい～大地の歴史を語る」

■講師：大友 幸子 氏（山形大学名誉教授（地質学））

今回は当たり前のように私たちが見ている景色について注目しましょう。景色（景観）は大地の歴史を語っています。山形盆地の両側にある千歳山・富神山、最上川下りの白糸の滝、芭蕉が「おくのほそ道」の旅で俳句を詠んだ山寺や本合海（矢向橋）、また文翔館だって大地の歴史に関係してるんですよ。



会場

山形大学 理学部S401教室（ふすまホール）

※会場・駐車場の地図については別添の
「会場・駐車場のご案内」を参照してください。

対象

高校生・学生・一般市民

お申込み

裏面の参加申込書に必要事項をご記入の上、
メール、郵送、Faxでお申し込みいただくか、
下記QRコード、URLからお申込みください。

- ※1 郵送の際はお問合せ先の住所へお願いいたします。
- ※2 オンラインでの参加をご希望の場合は、
必ず以下のQRコード又はURLからお申込みください。

QRコード URL:



<https://forms.gle/XUsR7SeG7vUZuFrA7>

アクセス

JR山形駅から：ベニちゃんバス「東くるりん
東原町先回りコース」で「山大前」下車（所要
時間約9分）

定員

会場180名（オンラインでも実施）

〈主催・企画〉

大学コンソーシアムやまがた

〈お問合せ先〉

大学コンソーシアムやまがた事務局
〒990-0041 山形市緑町1-2-36 遊学館2階
TEL:023-628-4842
FAX:023-628-4820
E-mail: yu-unicorn@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

「やまがた夜話」参加者には各回講演会前後（17:00～19:30）に「地球ミュージアム」を開放します！
「地球ミュージアム」の場所は、別添の「会場・駐車場のご案内」を参照してください。

URL: <http://sci.kj.yamagata-u.ac.jp/~esrc/EarthMuseum.html>

見学
自由



FAX：023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局行き

「やまがた夜話に参加申込みをします。」

◆申し込み方法 以下の①又は②によりお申し込みください。

①必要事項をご記入の上、メール、郵送、Faxで

②表面のQRコード、URLから

◆申込締切日：それぞれの夜話の前週金曜日まで

参加日	参加希望日の口欄に、 ☒ をつけてください。 ※オンラインでの参加希望の方は、表面のQRコード又はURL からお申し込みください。 ☐ 令和7年2月19日（水）18：00～19：00 対面 ☐ 令和7年3月 4日（火）18：00～19：00 対面 ☐ 令和7年3月19日（水）18：00～19：00 対面
住 所	〒
氏 名	
連絡先	TEL
	E-mail @
所属	(※必須ではありません。)

・対面での受講申込者が会場定員（180名）に達した場合は、入場をお断りさせていただきます。その場合はオンラインでの参加をお願いします。

・この申込書にご記入いただいた情報は、講座を受講するために必要な事務連絡、参加者名簿等に使用すると共に、今後の講座開催時のご案内に使用させていただきます。

オンラインで参加される方は、表面のQRコード又はURLからお申し込みください。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた事務局

〒990-0041 山形市緑町1-2-36 遊学館2階

TEL：023-628-4842 FAX：023-628-4820

E-mail：yu-unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

会場・駐車場のご案内

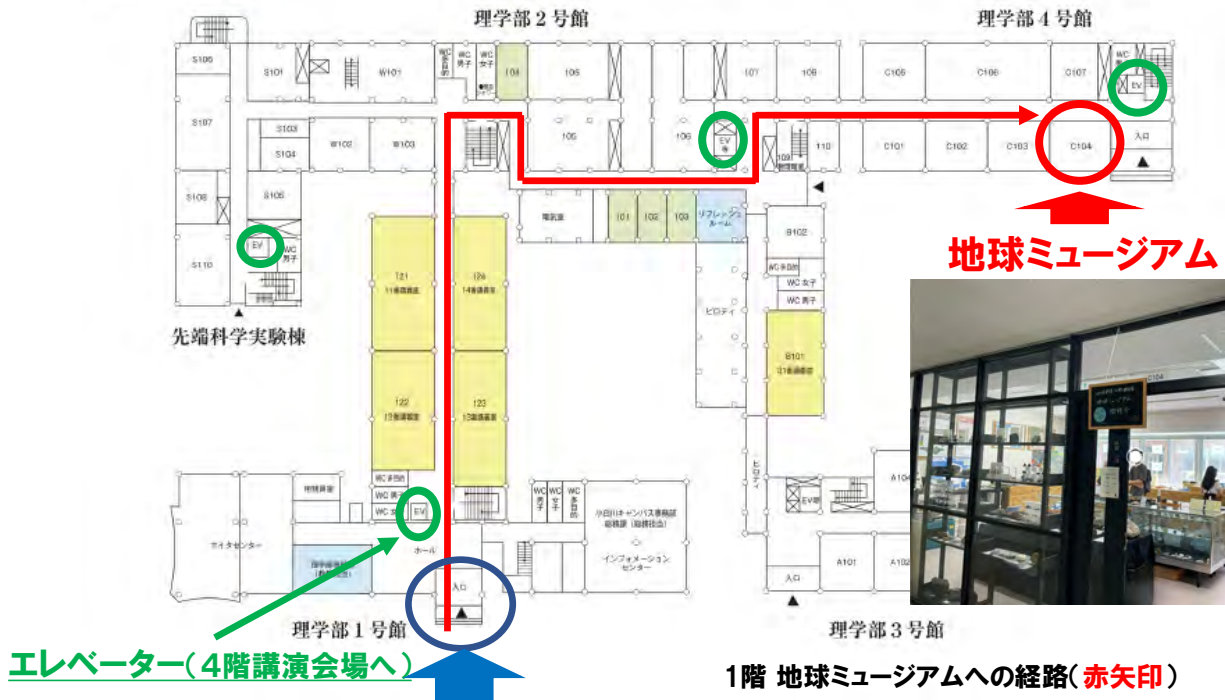
- お車で来られます場合は、山形大学小白川キャンパス 近く（南西側）のコインパーキングをご利用ください。



山形大学理学部館内マップ



1 階



理学部棟入口



4 階



理学部棟入口近くのエレベーターから4階へ上がった場合の経路(赤矢印)

地球ミュージアム近くのエレベーターで4階へ上がった場合の経路(青矢印)